

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 校内新ネットワーク保守運用業務委託費（債務負担）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail : c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 53,201 千円 (前年度予算額： 75,713 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	75,713	0	0	0	0	0	0	0	75,713
要求額	53,201	0	0	0	0	0	0	0	53,201
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- 令和8年1月より新ネットワークシステムが稼働。学内ネットワーク機器の運用及びサービスの提供は、学内連絡や施設予約はもとより、授業・研究活動全般にわたり、教育研究ネットワークインフラとして機能しており、安定・効率的かつセキュアなネットワーク環境及び充実したネットワークサービスを維持するため、構築及び運用保守業務を委託している。

(2) 事業内容

○ネットワークサービス

- ・障害発生時の機器修理、交換作業
- ・ソフトウェアのアップグレード
- ・機器監視、セキュリティ診断
- ・テクニカルサポート
- ・セキュリティ対策（標的型攻撃・ゼロディ攻撃対策機能等）等

○サーバサービス

- ・Webサービス(Databaseサービス)
- ・監視サービス
- ・認証サービス
- ・グループウェアサービス
- ・インターネット接続サービス
- ・e-Learningサービス
- ・シンクライアント（VDI）
- ・学術認証フェデレーション参加
- ・メール誤送信防止システム
- ・ファイル暗号化システム等

[事業費内訳]

<校内新ネットワーク構築及び保守運用業務>

・契約期間：令和7年4月30日～令和12年12月31日

(運用期間：令和8年1月1日～令和12年12月31日 (60ヶ月))

・総事業費：354,500,000円

[R7：71,797,454、R8～R11：53,200,536、R12：39,900,402]

(3) 県負担・補助率の考え方

岐阜県情報セキュリティ基本方針では、コンピュータの管理、アクセス制御、不正プログラム対策、不正アクセス対策等の技術的な対策を講じることとされている。

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	53,201	ネットワークの保守運用に要する経費
合計	53,201	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県情報セキュリティ基本方針

(2) 後年度の財政負担

R12年度に新システムを構築し、R13.1～移行予定。

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

本学の教育・研究・製作活動を支える情報インフラとして、安定かつ効率的なネットワーク環境の維持及び安全面に充実したネットワークサービスの提供を行う。

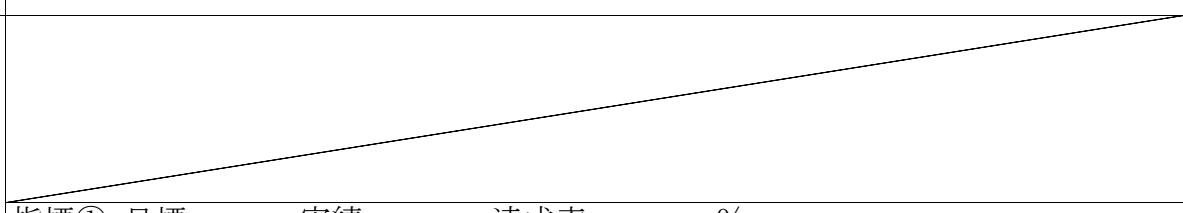
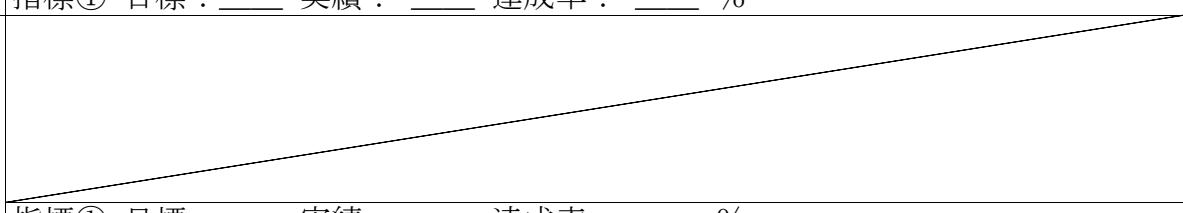
(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R7)	R8年度 実績	R9年度 目標	R10年度 目標	終期目標 (R11)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

学内システムの維持運営にかかる経費であり、指標を設定することがなじまないため。

(これまでの取組内容と成果)

令和 7 年 度	5年前に構築した本学独自の校内ネットワークを新たに構築し直した。 本学の教育研究ネットワークとして機能しており、安定した各種サービスを提供できた。
令和 8 年 度	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和 9 年 度	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	情報を標榜する本学は、授業や研究等で幅広く活動されており、ネットワークは不可欠である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	(評価) 2
本学の情報インフラとして安定稼働している。	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	(評価) 1
各種連絡、授業予定、行事予定、施設予約、スケジュール管理等を行うことができる。	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

本学の情報インフラとして、安定した稼働やウィルス等に対するセキュリティ対策が必要となっている。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
令和2年6月から令和7年12月までの長期契約であり、契約期間中安定稼働するよう、細心の注意を払う。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	